

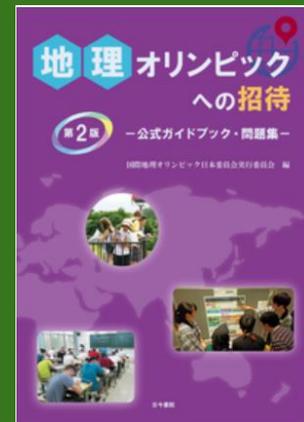
2023.11.11 日本地理教育学会 例会  
@獨協大学 コミュニティスクエア

# フィールドワークで培うスキル —地理オリンピック第三次選抜を事例として—

神奈川県立希望ヶ丘高校 井上明日香

# はじめに—自己紹介

- ・ 教員13年目
- ・ 勤務校で「地理総合」(1年生)を担当(9クラス！)
- ・ 地理オリンピックは2013年京都大会から関与
- ・ 国際大会のリーダー：2014(クラコフ)、2015(ロシア・トヴェリ)、2019(香港)
- ・ 地理オリンピック公式ガイドブック執筆など



# アウトライン

地理オリンピックの第3次試験の紹介

「地理総合」におけるフィールドワーク

フィールドワークの技能の育成を図るために

# アウトライン

## 地理オリンピックの第3次試験の紹介

「地理総合」におけるフィールドワーク

フィールドワークの技能の育成を図るために

# 地理オリンピックのフィールドワーク(以下FW)

国内選考の第3次選抜試験として実施

フィールドワークエクセサイズ(FWE)は3種類のテストに分けられる

- ①MRT(Map Reading Test) 地図を見て地形などを解くテスト
- ②MMT(Map Making Test) フィールドの地図を作成し、特徴を見出すテスト
- ③DMT(Decision Making Test) フィールドの課題解決策を問うテスト

ほか、グループディスカッションを2021年から実施(本報告では割愛)

2023年のFWEを例示する

## 2023年実施のテスト紹介MRT①

問1 1m感覚で描かれた等高線から0mの等高線を選ぶ  
(-1mから5mまで1mごとに引かれている)



# 2023年実施のテスト紹介MRT②

## 問2 対象地域(東京都現代美術館・木場公園周辺)の土地履歴を示す

表1 東京都現代美術館・木場公園エリアの土地の履歴

時 期	土 地 の 履 歴
江戸時代初期	入間川（隅田川）や利根川などが作った三角州前面に広がる浅い海底
江戸時代	小名木川以南の埋め立てによってエリアを含む一帯が陸地化
明治初期 ～昭和40年代半ば	
昭和50年代	
平成～現在	

## 2023年実施のテスト紹介MRT③

問3 東京都現代美術館・木場公園が持つレクリエーション機能以外の機能を根拠を示しながら答える

問われる力：地形に関する知識・技能

地図から適切に地域の状況を把握する力

# 2023年実施のテスト紹介MMT①

Q4.歩いたルートを地図上に示し、地域の土地利用の特徴を記述する



## 2023年実施のテスト紹介MMT②

Q5.商店街の地図を作成し、作成した地図に基づいて商店街の特徴を記述する



問われる力：適切に地図で表現する力

地域の課題発見力

## 2023年実施のテスト紹介DMT①

問6 1992年～1995年にかけてはどのような地域だったか記述する

問7 清澄白河駅の開業について、乗降客数の変化を資料から読み取り、駅周辺にもたらした影響について考えられることを記述する

## 2023年実施のテスト紹介DMT①

問8 地下鉄の新線・新駅が開業することによる影響を記述する

そのうえで、より地域の魅力を高めるためにどのような街づくりができるかを記述する

(資料として、江東区のタウンミーティングの資料などを提示)

問われる力：諸資料の適切な活用能力

地域の課題を解決しようとする力

# アウトライン

地理オリンピックの第3次試験の紹介

「地理総合」におけるフィールドワーク

フィールドワークの技能の育成を図るために

# フィールドワーク(FW)のスキルは培われている??

地理オリンピックのFWを絶対視してはならないが...

第三次選抜に挑戦する高校生であっても、FWに関する技能は十分に身につけているとは言い難い



試験の際にはブリーフィングを行う

→事前にフィールド観察や地図作成の基本を確認する。

# 必履修科目「地理総合」でのFWに関する記述

## 学習指導要領 地理総合の目標(抜粋)

「地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け」

「地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」

# 「地域調査」の学習

「地理総合」で獲得した見方・考え方を活用することを踏まえることを期待



扱う内容が多い中で、「地域調査」まで学習内容がたどり着かないという声も...

学校周辺の地域調査のテーマ設定が困難??

: 学校が変わる度に地域のことを調べないといけない

教科書に書いてあるような典型的な事例ばかりではない

(フィールド調査に適した事例がない場合もある)

## 高校のFW実施状況

池・福元(2014)が神奈川県下の高等学校を対象としたアンケート結果によると、  
野外調査の実施率は21%(公立の教員の16%、私立の32%)

かつては実施していたものの様々な制約から実施しなくなった教員も一定数いる



地理学の専門コースを卒業した者の方が実施率が高い

⇒「地理総合」が始まり、地理を専門的に学んだことのない教員増が見込まれる

今後FWの実施率が高まるとは考えにくい

## なぜ、高校でFWに行けないのか？

1コマで学校を出発し戻る適切なコースを設定しにくい地域もあること  
校外に生徒を出す際に、管理職などの許可が必要になる場合があること  
生徒の実態などを考えると、校外に出しにくいこと  
気象条件を考慮しなければならず、負担が大きいこと  
下見や事前準備に十分な時間が割けないこと など



教室内の学習でもFWで養われる能力の育成を図ることが求められるのでは？

# アウトライン

地理オリンピックの第3次試験の紹介

「地理総合」におけるフィールドワーク

フィールドワークの技能の育成を図るために

# 様々なFW

FWは3種類に類型化できる

(池編『地理教育フィールドワーク実践論』による)

- i. 見学型 見学を通して事象の認識を図る
- ii. 作業型 作業を通して地域の理解を図り多面的に深める
- iii. 体験型 課題設定を行い、仮説を立て調査し実証する

受動的

積極的



## FWに行かなくても...

- ・ 地域の実情を把握する

...GISを上手く活用する 地理院地図、今昔マップ など

### 【ポイント】

- ・ 「地理総合」の冒頭でGIS→その後の学習で広く活用
- ・ 高等学校では通学範囲が広い→学校周辺地域を地図を使い理解する学習も重要

## FWに行かなくても...

- ・地域の課題を解決するための提案

...様々な学習内容を関連付けて実施。防災やその地域の抱える問題など

### 【ポイント】

- ・実現可能な、地域の実情に合った提案をさせる
- ・地域調査の学習になってから提案をいきなりするのは厳しいので、普段から多様な提案型の授業や課題を発見・指摘する学習活動を取り入れる

## FWに行かなくても...

- ・ 地図で表現する

...対象地域で何の情報が重要なのか考える＝地域の特徴の深い理解

### 【ポイント】

- ・ 文章表現を苦手とする生徒でも取り組みやすい
- ・ 学校周辺でもいざ地図を書くと困難
- ・ 地理院地図Vectorを編集した地図などを活用し、徐々に情報を減らしつつ作業させるのもよいのでは

## FWに行かなくても...

- ・ 実態把握のためのインタビュー

### 【ポイント】

- ・ オンライン会議システムなども活用できる
- ・ 生徒の人間関係の活用なども可能
- ・ 地域を理解する学校関係者の協力も考えられる(OB/OGなど)

# まとめ

- ・ FWで養いたいスキルは多岐に渡る
- ・ 「FWができないからFWの技能は身につかない」と言うのは簡単。教室内の授業でどのような力を身に付けられるのか、学習活動の意義や目的を捉えなおすことも重要である
- ・ FWが重要であることを伝え続ける努力も求められる

ご清聴ありがとうございました！

引き続き、地理オリンピックに対するご協力をよろしくお願いいたします。